

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38453	
事業名	ホッキョクグマ保全推進費						
評価担当課	所属名	環)円山動物園 飼育展示課					
	課長名	山本秀明	担当者名	朝倉卓也	電話番号	011-615-8097	
施策名	主	自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	マニトバ大学との共同研究及びアシニポイン動物園との連携事業を通して、当園の環境教育機能の向上を図ることにより、ホッキョクグマ生息地であるカナダ・マニトバ州との連携を構築し、同地で保護される野生孤児個体の受け入れを目指す。				
		長期	ホッキョクグマ保全における国際的な連携枠組みに参画し、飼育下個体群を維持することにより、ホッキョクグマ飼育展示を通じた地球温暖化等環境教育機能を維持・拡充する。				
	取組内容	生息地の保全機関等との連携強化を図り、国際的な保全計画に参画することにより、繁殖計画を推進することで、ホッキョクグマの生息域外保全への貢献及び来園者への環境教育機能の拡充を図る。					
	実施結果	マニトバ大との共同研究を継続し、マニトバ州政府の考え方に関する調査やホッキョクグマ保全に関わる効果的な教育に関する研究などを行った。また、令和3年11月にはアシニポインパーク動物園との気候変動対策に関する覚書を締結し、同年12月には世界の気候変動の現状や野生のホッキョクグマの現状を広く市民に伝える、バーチャル・シンポジウムというオンラインイベントを開始した。(令和4年4月まで実施)教育関係では、近隣小学校との気候変動対策に関する連携プログラムも開始し、出前授業や園でのプログラムの実施も行っている。					
事業実施における工夫点	共同研究の実施、連携構築にあたっては、野生動物保護管理に実績を有するコーディネーターを活用し、緊密かつ継続的なコミュニケーションを図る。気候変動対策に関する教育ではアシニポインパーク動物園との覚書に基づき、ホッキョクグマに関する最新の情報を入手している。						
対象者	市民及びアシニポインパーク動物園、マニトバ大学			開始	令和2年度	終了	令和4年度
関連法令・条例・要綱等							
他都市の状況	全国の他園館でも同様の事業を実施している。 例) 旭山動物園:ボルネオ恩返しプロジェクト、横浜動物園:ウガンダ野生生物保全事業						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	10,230	9,500	8,991	10,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.3	0.3	0.3	0.3	
人件費	2,160	2,160	2,160	2,160	
計(事業費+人件費)	12,390	11,660	11,151	12,160	
事業費の内訳	令和3年度決算	決算額 8,991千円 <内訳> 共同研究及びコーディネート業務委託費 8,991千円			
	令和4年度予算	予算額 10,000千円 <内訳> 共同研究及びコーディネート業務委託費 9,000千円 その他 1,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	ホッキョクグマ導入合意			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
					導入合意
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	海外からのホッキョクグマ飼育個体(雄雌各1頭)の導入合意			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
					導入合意
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	カナダ マニトバ州におけるホッキョクグマ保全の中心的役割を背負っているアシニボインパーク動物園と気候変動対策に関する覚書を締結することができ、それに基づいて市民にホッキョクグマの現状について伝えるバーチャルシンポジウムや近隣小学校との気候変動対策に関する連携プログラムを実施することができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	オンラインの活用やカナダの動物園との覚書を基にした情報収集など、効果的に事業を進めることができており、事業規模としては適切だったと考える。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	カナダとの共同研究のコーディネートに、カナダで主体的に研究等を進めてくれているマニトバ大学の教授と長い期間共同で研究に取り組んでいた者を起用するなど、より効率的に進められる体制を構築した。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらもオンラインを活用して海外との調整を進め、海外の動物園との覚書を締結することができた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	バーチャルシンポジウムの開催など昨年度は実施できなかった市民へ還元できる取り組みを実施することができた。また、気候変動対策に関する教育を近隣小学校と連携して取り組めたなど学校側のニーズに応えられる活動も実施することができた。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	カナダ マニトバ州政府との連携を強化し、ホッキョクグマの導入合意に必要な情報の収集及び関係の構築を継続していく。				
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	新型コロナウイルスの影響で活動が制限されるなか、オンラインを活用して、市民への情報発信や教育活動に取り組んだ。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	ホッキョクグマの導入合意には至らなかったが、新型コロナウイルスの影響下でオンラインを活用する等、できる限り効率的に取り組むことができた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 令和3年度に締結したアシニボインパーク動物園との覚書に基づく教育活動や、継続して行っている共同研究について進めることによりカナダとの連携を強化し、ホッキョクグマの導入合意を目指す。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他		見直し効果額	0
	現状の予算を活用しできる限り計画にある共同研究や教育活動を効果的に行う。				